

## 地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型施設グループホームとしての使命・役割を果たしていく為に、基本方針（運営規程第2条）と運営方針（重要事項説明書2の(8)）を毎月のスタッフ会議にて確認しあい、目的意識の向上に努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	社会福祉法人豊の里の理念「綱領」を毎朝全スタッフで唱和を行うことによって、全スタッフの共有化を図るとともに、統一した目的のもと実践に向けての再確認に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	法人の理念「綱領」については、施設内ホールの見やすい場所に掲示し、ご家族の面会や地域の方々が見学等こられた時に、ご理解していただけるように随時説明させて頂いている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩を通して、近隣の方々に挨拶を交わしたり、お花や野菜などを頂いたり、近くのお店に立ち寄って会話をするなどして地域にとけこんだ施設づくりに取り組んでいる。また、昨年8月1名の職員紹介をして頂き、現在も在籍中である。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	H21年度4月より久味木地区公民館に加入したことで、回覧板のやり取りを通じ地元の交流を深めている。地区祭り・環境整備のクリーン作戦など数名の利用者と参加している。	○  公民館に加入したことで、更にグループホームとして、理解をして頂きながら、防災時の地区連絡網やエスケープ時の協力体制など、一緒になって構築していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>年6回の運営推進会議を通して地域住民代表（民生員）の貴重な意見を頂き、相談など気軽にさせていたでいる。また、中学校依頼の交流学习を年2回実施しており、「人とのつながり」を学校のテーマとされており、毎年受け入れを実施している。</p>	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価の意義や目的、また改善活動へ繋げていく「気づき」の向上の為に、全スタッフで自己評価の各項目ごとに検証し、記録する事で再確認している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議後はミーティングにおいて、会議内容報告を行い、目的や意識の統一化を計る為に、協議してサービスの質の向上へ反映されるよう努めている。また、利用者自身の参加により、行事の写真を見ながら進行していることで、スタッフ間の行事に対する意欲が出てきている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議時や、行政に出向いたりした際、疑問に思うことなど、積極的に相談を行っている。また、介護相談員を受け入れ、行事にも参加をして頂き、御家族の声を聞いて頂いたり、助言やアドバイスをサービスの質の向上に活かしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現入所者の方々には該当者はいないので、関係機関との連携等は行ってはいないが、地域権利擁護事業や成年後見制度については、関係事業所等から資料を頂いて学んでいる。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の徹底を図る為、資料の配布やミーティング時に注意を呼び掛けている又、スタッフ会議等で勉強会を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には必ずご本人とご家族とで施設見学をして頂き、丁寧に分かりやすく説明を行うようにしている。契約の際は管理者が十分な説明と手続等に際しては、読み合わせを行い理解を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に、利用者の方にも1名ずつ参加をして頂き意見を聞いている。ひまわりでの活動や取組の内容を記録した議事録は、いつでも閲覧できるようにしている。また、面会時や総会時に議事録の配布を行っている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日常での生活ぶりや、健康状態については、面会時に状況報告を行っている。時には電話にて個別連絡もしている。特に健康状態の急変時にご家族への説明を十分に行い、病院同行を依頼しご家族の意向を反映した上で対応している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や地域の方々等からの貴重な意見を頂けるように「ご意見箱：ちょっと気がつきました」の設置や、年2回全員の利用者家族によるアンケートと、お正月・お盆帰省時アンケートなどで、満足度を確認し改善に繋げている。アンケート集計後は家族会総会時全員に配布している。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの相談はその都度管理者と話し合えるようにコミュニケーションを図っている。また、年2回人事考課及び力量判断（9月・3月）の際、個人面談を実施し、提案等の聞き取りを行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフの家庭環境も十分に考慮し、月次の勤務計画表作成時には必ず希望休を聞き入れるように努めている。行事予定での体制やご家族等の要望等は事前に組み込んだ勤務体制が取れるよう心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	GH事業所内管理者、看護師、介護支援専門員、介護職員の交流を継続している。今後も、随時、意見交換を継続していく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅訪問時に、詳細にわたる聞き取り調査を行う事は勿論、屋内外環境へも目を配り、生活環境も把握している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期における在宅訪問調査の際には、情報収集のため、十分に聞き取りを行いアセスメントへ記載するよう努めている。また、入所になるまでの間、電話による近況報告など情報交換を行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前には施設見学等必ず行い十分な説明を実施している。不安や戸惑いなどを感じられた場合には、十分な説明を行っている。必要としている又、必要なサービスはどんな事なのか見極める際に、他機関（特に居宅支援事業所）との連携も行い支援している	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設の環境に馴染んで行く事、又日常の活動参加についても各自のペースや生活リズムにあわせれるよう常に声掛け誘導して、ご本人に無理がないか等意向を確認してから実施している。又、医療機関への受診の際は、ご家族同伴のもと受診し、その場で納得していただけるように努めている。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気を保ちながら、音楽療法・運動療法（散歩）・作業&家事療法（掃除・花植え・茶碗洗い・茶碗拭き・テーブル拭き）を通じて、支え合う関係作りに努めている。	

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり（さくら）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会との年間行事計画により行事に参加して頂く事で共に共感している。面会時には日頃の状況（食事・排泄・レク活動・散歩・夜間の状態・行事での写真回覧）などを話題にする事で共に共感している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月の領収書・請求書等を取りに来て頂く際や、本人から家族に要望等があった時を含め、その都度希望に合わせている。また、冠婚葬祭・法事等も各家庭に合わせ自由に外出・外泊できる様支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	隣の施設（豊明苑）までの散歩をかねて知人に会いに行くなど支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各部屋に遊びに行き、利用者同士の会話が弾んでいる。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状や電話による近況報告等をしたり、行事による参加をよびかけている。また病院に入院中は、状況報告をご家族より伺ったり今後の方向性について相談を受けながら、受け入れ先について一緒になって検討をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝挨拶の時に個々の話を聞き取り、日課へ取り入れている。毎日の援助の中では、入浴の順番や食事の配膳等に利用者の希望を聞き生活リズムの確認に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各自の能力やその日の健康状態等に応じて、自由にテレビ観賞や家事療法、作業療法に参加している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の身体状況のチェックと個別能力にあわせて行えるようにしている。本人との会話を十分することにより、日課等決めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会議やケース会議の開催時利用者の状態の経過や問題について話し合う。毎日経過観察を行い、その都度工夫し改善活動に努めている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個々のケアプランに添った援助日課を実施し、ケース記録を記入している。又必要に応じ家族の面会時に状況説明をして、プラン修正を行う。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と観察簿に記入しており、朝・夕のミーティングで再確認するよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連絡を取り合い入所前の環境・趣味等を開き連携を取り合って柔軟に対応出来るよう努めている。（生活暦）		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の中学生との交流やボランティアによる音楽等を開いたりして、地域交流に努めている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーと相談し、個々のアセスの中でサービス利用の経過の把握に努め支援体制をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人にとってよりよい援助日課がケアプランに添っているか検討しながらサービスを行っている。		



宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり（さくら）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーやフェースシートなど、介護記録の情報提供や情報交換による共有化を行っている。 (入院・退去)		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の使用に係る同意書があり、全職員同意していることは勿論の事、気配り、目配り、心配りに配慮するよう努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	数名の利用者、意思表示ができる利用者に対しては、散歩、買物等実施している。又、利用者のニーズを常に引き出すような声かけを行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の散歩や買い物の要望時は本人のペースに合わせ、無理をせず、本人の思いを取り入れている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で洋服を選択できる利用者には、化粧品や帽子など、自分の持ち物でおしゃれを楽しんで頂いている。扱えない方には、数ある洋服の中で似合いそうな物を探し渡している。また、理容・美容は自由に行ける様にしているが、ご家族からの依頼で、職員が定期的に髪のカットを行なっている。		

宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり（さくら）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の要望に応じ、朝食にパンやご飯での対応を臨機応変に行なっている。		
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	アルコール類に関しては行事の時に希望を聞き取り入れている。特に夏は夏バテ防止に、ジュースを作り楽しみながら飲んで頂いている。		
56 ○気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間的な誘導及び排泄パターン把握と記録の徹底で自立へむけての支援を実施している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに午後より入浴を実施している。本人の体調に合わせて行い、入浴中は本人と会話をしながら、ゆっくり時間をかけている。入浴後は保湿対策に化粧水や乳液を顔に付けたり、湿疹や発赤には処方薬の塗り薬で対応している。また、入浴前に月1回は体重測定を行い記録をしている。		
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、体操や遠方への散歩を取り入れ、夜間の安眠対応を工夫している。精神面でも安定・安心するような声かけを行っている。夏場は特に発汗の多い利用者に対しては、アイスノンを使用している。室内の温度管理をこまめに行い、冷暖房で対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い、食器拭き、洗濯干し、洗濯たたみ、花植など、生活歴や現在の状態を勘案して行っている。家族との電話のやり取りや、面会を通し気晴らしが出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの要望で購入希望時は、体調が良い時には一緒に行くが、それ以外の時には職員が買い物に行く事に対応することもある。また、年間行事でも買物ツアーを計画し、買物を楽しんでいただいで社会参加への支援をしている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨の日や暑さ寒さのひどい時以外は、一人ひとりの体調や希望に沿って園外散歩を行っている。市役所・社会福祉協議会・病院受診の時等に近くのスーパーやケーキ店などに立ち寄りたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	映画鑑賞・音楽鑑賞・福祉祭り・美術館・市役所・お墓参りへ出掛けたり、家族会年間行事の中で、買い物・お花見・外食など少人数で数回に分け出掛けている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者の要望があれば、電話で話して会話を楽しんでいただいている。又、こちらからの用件で電話をした際、その方の状態に応じ電話に出て頂き、会話ができる様支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問して頂けるよう、職員の温かい対応や気持ちの良い挨拶を心がけた、雰囲気作りに努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の中で身体拘束についての資料を配布し、勉強会を行っている。		


宮崎県都城市 グループホーム2ユニットひまわり（さくら）

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>できる限りオープンにし、地域との連携を密にしていきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>本年度公民館加入により、災害時の連絡網など情報交換や運営推進会議メンバー（地元の民生委員）の協力を頂きながら、近隣の方々と一緒に防災訓練を計画していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	歩行のふらつき、食欲不振、不眠による身体状況の変化や病状悪化については、状況によっては、主治医受診同席で説明をして頂いたり、受診後の状況報告を電話にて連絡している。今後の危険性や状態悪化の可能性の恐れがある事を伝え、その時点で了解を得る。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回、バイタルチェックを行っている。血圧の高値や熱の上昇等が発生した時は、速やかにかかりつけ医へ連絡し対応している。		
74 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を職員一人ひとりが、いつでも確認できるように所定の場所においている。職員は毎食前・食後に服薬を確認し、服用介助後は利用者観察簿にその都度チェックをしている。また、服薬変更時は家族に連絡すると共に、その都度伝達及び申し送り帳に記載し、全スタッフがすぐ確認できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や散歩で体を動かすことや、年間を通してサツマイモを使ったおやつ等の提供で工夫をしている。また、利用者観察簿チェック表で排便確認を行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し習慣化している。歯の不具合の訴えがあるときは、家族に相談後歯科受診を行っている。また全員年1回歯科医による、口腔アセスメントを実施し早期に対応している。。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事摂取量は毎日利用者観察簿へ記入し、朝・夕・ミーティング時必ず職員で確認を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出した際、帰所時、手洗い・うがいを実施している。毎日、朝・昼・夕・次亜塩素酸ナトリウムで、トイレ、手すり、椅子、ドアノブ、トイレ内の壁など消毒を徹底している。行政等からの感染症資料を職員全員で回覧したり、感染症研修に積極的に参加している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食前に職員が検食を行っている。盛り付け前の手洗いの徹底、再加熱の徹底を充分行っている。食器やふききは随時ハイター消毒や日光消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、段差をなくし、椅子を二脚設置している。玄関に手水鉢を設置し、雰囲気づくりの為、めだかをかっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	切花や工作をした物を飾り施設感のない雰囲気づくりに努めている。玄関には椅子を2脚用意し、靴を履いたり脱いだりする際は転倒防止に座れるように設置している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間（畳）、ロビー、などでテレビ視聴や音楽を聴いたり、会話を楽しむ空間を設置している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の思いや利用者の健康面には十分配慮し、さまざまな工夫をしている。又、利用者同士の暴力・暴言などのトラブルが少なく、ゆったりとした環境で過ごせるように工夫している。職員同志も仲良く、優しく、一生懸命に働く姿が業務に生かされている。